

日本統治期の「朝鮮」を描いた韓国と日本の文学作品の研究

専門分野

韓国と日本の近現代文学

キーワード

日本人の朝鮮認識 韓国人の日本認識 国家と社会と個人
支配と被支配 民族主義と国家主義 知性と良心 脱植民主義

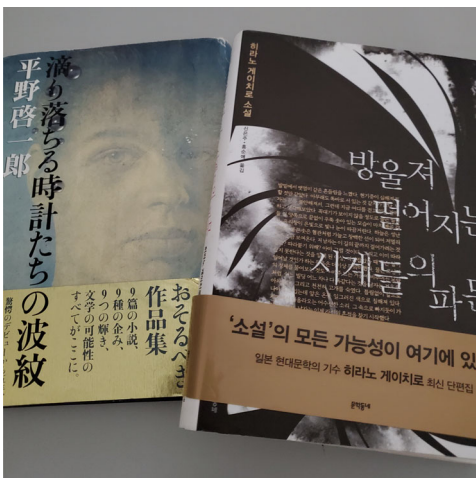
研究目的・概要

朴景利の対日認識と歴史観に関する考察

— 『土地』に描かれた日本・日本人・日本論を中心に—

韓国の大河小説『土地』(全 20 巻)の作家朴景利の対日認識と歴史観を考察することで、韓国と日本の不幸な歴史の実態への理解を深める。研究を立体的にすすめる切り口として中野重治の作品世界に注目し、文学の言説を通して、日本と韓国の未来志向的関係の構築の可能性を考える。

1926 年生まれの朴景利は、最も多感な少女時代を植民地朝鮮で日本帝国の軍国主義教育を受けて成長した。朴景利の批判的な対日認識の根底には「近代」という名のものに隠された文明と野蛮、先進と後進、優越と劣等、多数と少数、中心と周辺など、近代主義の支配論理に内在する矛盾と限界に対する洞察があった。『土地』に描かれた日本・日本人・日本論を中心に作家朴景利の対日認識と歴史観について考察し、「反日」「批判的」という修飾語が必ずしも被支配者側の閉ざされた談論にとどまるものではない、支配側・被支配側にとってともに共有すべき脱植民主義的テキストとしての可能性を読み解いていきたい。



国際学部 国際文化学科
申 銀珠 教授

担当科目：現代韓国朝鮮論、韓国朝鮮文化論、韓国語

HP https://www.nuis.ac.jp/teacher_sin/
Researchmap <https://researchmap.jp/read0071588>